

## 自由論題報告 高橋報告 報告要旨

製品開発に関するイノベーションと言えば先ず先進国で起こり、それをグローバルな事業活動によって、地域の特性に合わせて改良改善を行ってきた。この場合のグローバルな事業活動とは市場全体の半分以上を占めていた先進国が中心で、その他の地域は補完的で大きなビジネスチャンスがあるとは考えていなかった。しかし、近年の BRICs をはじめとする新興国の急速な経済発展によって 21 世紀の市場拡大が期待されている。この成長発展を見据えてそれらの地域での研究開発の現地化も進んでいる。リバースとは「反転」の意味であるが、今、インドや中国で開発された製品、技術が先進国に反転するということが起こっている。このような新しい動きは多国籍企業研究、そして研究開発のグローバル化の研究の中でどのように捉えるべきなのかを考える。これらの研究はハーバードビジネススクールの研究者が先行し、「リバースイノベーション」もインド人教授が概念化している。先進国市場が成熟化する中で、新興国市場での市場機会は益々期待される。しかし、新興国市場での研究開発は先進国での研究開発成果を単純に応用すればよいというものではない。新興国は先進国とは違う貧困、環境、教育、医療などの様々な社会問題を抱えている。これらの社会問題に対応した経営戦略の展開が

CSR であり CSV(Creating Shared Value)の本質である。CSR は企業の社会責任と言っても利益の一部を社会に還元するというものではなく経営戦略の本業に据えることである。CSV はハーバードのマイケル ポーターの考えであるが、新興国での社会問題の解決を経営戦略の基本に据えることが企業の社会責任を通じてビジネスにもなるということである。新興国での研究開発はこれらの社会問題に取り組み、そこでの研究成果は今度は先進国でも活用され、大きなビジネスチャンスとなっている事例がいくつか出てきている。世界人口の 75%を占める約 4.5 億人の人が年間所得三千ドル以下と言う BOP 市場の今後の成長を考えれば、イノベーションの在り方は先進国とは全く違う体制で考えなければならない。本報告では新しいグローバル R & D ネットワークの捉え方として、リバースの意味を踏まえながら新興国での R & D 体制を検証し、いくつかの事例も紹介したい。